

---

# 本音・建前・妥協と恋愛

三つ木

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本音・建前・妥協と恋愛

### 【Nコード】

N4032BA

### 【作者名】

三つ木

### 【あらすじ】

学校というコミュニティの中、閉じた輪の中で起こるもろもろ。友達という束縛、恋愛という勘違い、変人である対価、周りと違う恐怖、価値観がちがう意味、それらを乗り越え、又は粉碎し、妥協し、迎合し、目的地を決めながらもこっちへフラフラ、あっちへフラフラ、時に目的地すら妥協しながら進んでいくお話。

だったらいいね。

## ある日の前（前書き）

はじめまして。はじめて書くのでみなさん全員はじめましてで間違いないはずです。

はじめて書きます、今までこんな風に書く遊びすらしたことない人間です。この話は自分の衝動で書いています。なので「あつ、こんな考えのキャラいたな」とか「しゃべり方が何となく似てる・・・」とかがあるかもしれません。

なのでこれはダメだと思ったら感想なりで言って頂いてかまいません。っていうか言ってくださいお願いします。

## ある日の前

「・・・・・・・・わかんねえよ」

「・・・・・・・・わかるわけねえだろ」

「・・・・・・・・例ええ！それがあ！自分自身のことだろうがああ！幾ら考えようがわからねえんだよおおお！！！！なの！！！！他人の事？んなもんわかるわけねえだろうがああああああ！！！！！！！！！！」

「・・・・・・・・だから俺は、他人の事なんて考えねえ。そんな他人のつまらねえ事情に、一々拘ってやるつもりなんざ」

「・・・・・・・・ねえんだからよおおおおおおおおおおおおおおお！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

これは本音。正真正銘間違はなく本音だ。ブチ切れて溢れ出た本音の発露。

流れ出たものはもう戻らない。ただ広がっていくのみ。

覆水盆に返らず。

ベシッ

・・・痛い。

ああ、痛いな。なんだこれは。後頭部を衝撃が襲った。

瞑っていた目を開けると暗闇だった。うつすらと入ってくる光を頼りに眼球を動かし周りを見ると、何か大きいものがすぐ目の前にあることが分かる。

これはなんですか？これは机です。

・・・あまりの熟睡っぷりに、ついつい英語の教科書みたいな問答が出てきたようだ。ああ、ならさつき俺の後頭部を襲った衝撃は・・・

「お前、さつきの授業でも寝てたろう。どんだけ寝れば満足するんだ？」

ん？先生はなにやら酷い誤解をしているようだ。間違いは間違いと素直に教えてあげるのもまた、生徒の役割だろう。

体を起こし、口を開き、聞くに堪えない言い訳がこぼれ出る。

「いやそれは違いますよ先生。むしろ逆です、俺は極力眠りたくないんです。だって、もつたいなくないですか？眠っていたら何も分からない、前後不覚とかそんなレベルじゃなくて、なにも感じることもないなんて、もつたいない。」

「いやいや寝てたじゃん。熟睡だったじゃん。しかも二時間ぶっ続けで」

「それはあれですよ、三時四時くらいまで起きてると昼間に眠気が・  
・ね」

「結局寝てたら同じだろうが。まあ、二時間分は充眠？したんだから、あとの時間ぐらいいは起きてろよ」

加藤先生が教壇のほうへ歩いていく、もう一人寝ていたやつがいたらしく、そいつも行きがけの駄賃とばかりに教科書で覚醒させられていた。

「いつも思っんだが、このご時勢に、軽いとはいえ暴力を振るう教師ってのもすごいよな」

「たしかに」

「しかも男女問わずだぜ、男女平等とかいってる世の中だけどなかでできないよ」

「たしかに」

「まあ俺の隣には授業中に三時間寝続けたっつー猛者もおられるみたいだが」

「マジでか！二時間の睡眠しか出来なかった俺なんかまだまだ……  
つてことなのかな」

「……………」

「スイマセン、はい私です」

弱いなー俺。はい、本当は三時間も惰眠を貪っておりました。  
ちなみに話しかけてきたのは隣の席の捨鉢活侍君、十六歳。八坂高  
校2年C組、主席番号・・・はわからないがなんとサッカー部のエ  
ース

の良き相棒だ。つまりエースほどの上手さはないけど他の部員より  
は上手く、エース君（仮）と現時点で1番上手く合わせられると、  
そういうわけで。

「お前、沈黙のプレッシャー？に弱いなあ。いつもながら」

「あの間がだめなんだよ。あの間が俺の良心を責めたてるんだよ」

「んなもんあんなのか？」

「はい、あります。すっげーのが。特注品のオーダーメイドが」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

「スイマセン、ありません、欠片も、微塵たりともございません。  
あと言葉の意味が被ってしまいました。もうしわけございません」

「オホン、話を戻すけど三時四時まで起きてなにしてんだ？」

「んーなんもしてない」

「は？」

「いやだから、特別起きてなんかしてるってんじゃなくて、もう何  
度も読んだ本を読み直したり、深夜ドラマを見たり、ああたまにテ  
レビシヨッピングも見たりと脈絡なく目的もないのさ」

「いやいやいやいや、んー、ふーん、はー、そうかそうか、なるほ  
どな。2年になって、隣の席になって、喋って、知り合って、まだ  
1ヶ月も経ってないが……間違いないと断言できるよ。」

「お前は変人だ」

「知ってるよ。多分……」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4032ba/>

---

本音・建前・妥協と恋愛

2012年1月10日17時49分発行